

「環境未来都市」構想推進協議会  
平成26年度「環境・社会・経済3つの価値の創造検討WG」活動報告

1. 開催実績

事務局：PwC Japan

○第1回会合 平成26年10月7日（火）～8日（水）

於：北九州国際会議場32会議室

参加者：40名（23団体）

うち、市区町村：20名/12団体、関係省庁：2名/1団体、  
政府関係機関：3名/1団体、民間団体：15名/9団体）

<1日目>

- ・本WGの趣旨、進め方等の説明
- ・開会のご挨拶（北九州市顧問）
- ・基調講演1（PwC発表）：  
「自由化後の日本の電力市場における自治体の役割  
～ドイツにおける先行事例を参考にした日本の未来像～」
- ・基調講演2（北九州市発表）：  
「北九州市響灘地区における電力事業集積による自治体ビジネスモデル」
- ・基調講演を受けて：  
「スマートシティにおける地域エネルギー計画」
- ・グループディスカッションおよび討議内容発表

<2日目>

- ・視察1：北九州市スマートコミュニティ事業視察（東田地区）
- ・視察2：エコテクノ2014
- ・視察3：響灘地区視察（若松区響灘エリア）

○第2回会合 平成27年1月19日（月）～20日（火）於：浦添市9階講堂

参加：37名（25団体）（オブザーバー参加：42名、25団体）

うち、市区町村：12名/8団体、関係省庁：3名/1団体、

民間団体：22名/13団体

（オブザーバー：市町村：4名/3団体、民間：38名/22団体）

<1日目>

- ・本WGの趣旨、進め方等の説明
- ・開会のご挨拶（浦添市市長）
- ・基調講演1（建築環境・省エネルギー機構発表）：

「地域エネルギー計画におけるコベネフィットの活用と事業スキームのあり方」

- ・基調講演 2（PwC 発表）：

「環境未来都市型まちづくり新ビジネスモデルの探究  
～エネルギーと都市再開発の官民学金連携モデル～」

- ・基調講演 3（浦添市発表）

「浦添市まちづくり政策の取り組みについて」

- ・グループディスカッションおよび討議内容発表（テーマ 1）

#### < 2 日目 >

- ・グループディスカッションおよび討議内容発表（テーマ 2）

- ・視察 1：米軍牧港補給基地（米軍基地返還後再開発予定地 2 7 0 ha）

- ・視察 2：西海岸第 1 ステージ開発地（那覇港浦添ふ頭地区埋立地 1 8 ha）

- ・視察 3：浦添グスク（首里城以前の中山王城址、沖縄戦戦争遺跡）

- ・視察 4：モノレール新駅「てだこ浦西駅」周辺まちづくり開発地  
（平成 3 1 年開業 2 0 ha）

## 2. 活動成果

○環境未来都市も 3 つの価値が成立する条件は、「①環境価値と経済価値の両価値が成立」か「②社会価値と経済価値の両価値が成立」しなければならない。つまり、「こうした条件が成立するにはどうしたら良いのか？」それを探求することを本ワーキングの最大の目的とした。しかし、これまでの慣習や概念が障壁になり、官民連携のあり方を変えたり、あらたな関係を構築したりしなければこれらの条件が成立できないであろうとする仮定の下、これをブレイクスルーするため自治体に取り組む事業において、官民連携での事業化・民営化・資金調達をいかに実践していくかについて、講演、事例、闊達なフリーディスカッションによるブレインストーミングを行った。少人数（1 卓 5 ～ 7 人程度）による全員参加型のブレインストーミング形式のディスカッションにより、個々の自治体・企業が抱える問題を気軽に共有化し、前向きな提案を出しあうことにより、日々の実務における問題解決の糸口を参加メンバーが持つて帰ることができた。これらの成果は必ずしもプレゼン資料等の成果物になった訳ではないが、それ以上に参加メンバーの環境未来都市推進における問題共有とノウハウの共有、共通課題の解決策若しくは考え方という形で成果となったと思われる。

○今年度は、グループディスカッションに加え、より本ワーキングを実践的な意見交換の場とするため、北九州市と浦添市に協力を得て、各市が取り組む環境未来都市型まちづくり事業の現場及び候補地を視察する行程を組み入れた。これにより、ディスカッションを通して深めた理解や問題意識を、現場レベルで体感するといった具体的な意見交換・知識の共有が可能となった。

以 上